

令和4年度

東京都市町村社会教育委員連絡協議会

交 流 大 会

・

社会教育委員研修会

市民のニーズを活かす・つなげる社会教育
～対話からつくろう これからの「学び」～

日時:令和4年12月10日(土)午後1時30分～

会場:昭島市公民館小ホール

主催:東京都市町村社会教育委員連絡協議会

**令和4年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
交流大会・社会教育委員研修会実施概要**

1 趣 旨	<p>コロナ禍において ICT の活用が一気に進んだが、やはり人と人との直接会って関わり合いから生まれる学びの意義深さを大事にしたいと考え、「対話」をキーワードに、様々な形の「対話」を通して、われわれ社会教育関係者が市民の声を真摯に聴き、受け止め、相互に関わりながら、これからの社会に必要なことを創り出していくことを目指す</p>								
2 テ ー マ	<p>市民のニーズを活かす・つなげる社会教育 ～対話からつくろう これからの「学び」～</p>								
3 日 時	<p>令和4年12月10日（土）午後1時30分から4時30分まで</p>								
4 会 場	<p>昭島市公民館小ホール</p>								
5 内 容	<p>■第1部 交流大会（13：30～14：52）</p> <p>○式典（13：30～13：45）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">開 会 都市社連協副会長</td> <td style="width: 50%;">篠崎 光正（調布市）</td> </tr> <tr> <td>挨 拶 都市社連協会長</td> <td>谷部 憲一（昭島市）</td> </tr> <tr> <td>来賓祝辞 昭島市教育委員会教育長</td> <td>山下 秀男 氏</td> </tr> </table> <p>○各ブロック研修会実施報告（13：55～14：52）</p> <p>第一ブロック幹事 福生市 第二ブロック幹事 立川市 第三ブロック幹事 日野市 第四ブロック幹事 小平市 第五ブロック幹事 武蔵野市</p> <p>質疑応答</p> <p>■第2部 社会教育委員研修会（15：05～16：20）</p> <p>「孤独を解消する！ だれもが対話し、つながる社会へ」</p> <p>講師 （株）オリィ研究所 OriHme パイロット なおき 氏 NPO 法人東京こどもホスピスプロジェクト 代表理事 佐藤 良絵 氏</p> <p>質疑応答</p> <p>閉会行事（16：25～16：30）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">挨 拶 東京都教育庁地域教育支援部 生涯学習課主任社会教育主事</td> <td style="width: 50%;">梶野 光信 氏</td> </tr> </table> <p>閉 会 都市社連協副会長代理 （町田市事務局）</p>	開 会 都市社連協副会長	篠崎 光正（調布市）	挨 拶 都市社連協会長	谷部 憲一（昭島市）	来賓祝辞 昭島市教育委員会教育長	山下 秀男 氏	挨 拶 東京都教育庁地域教育支援部 生涯学習課主任社会教育主事	梶野 光信 氏
開 会 都市社連協副会長	篠崎 光正（調布市）								
挨 拶 都市社連協会長	谷部 憲一（昭島市）								
来賓祝辞 昭島市教育委員会教育長	山下 秀男 氏								
挨 拶 東京都教育庁地域教育支援部 生涯学習課主任社会教育主事	梶野 光信 氏								
6 参加対象	<p>多摩地区社会教育委員及び関係職員等</p>								

第一ブロック研修会実施報告

報告者：福生市社会教育委員の会議 副議長 西山 多恵子

実施日時	令和4年10月29日（土） 14時00分～16時30分		
場 所	福生市もくせい会館 3階 301・302 会議室		
参加者数	52名	幹事市	福生市

テ ー マ	みんなで「学ぶ・楽しむ・つながる」社会教育をめざして
形 式（方法）	事例発表、講演、グループワーク

【概要】

1 開会

- (1) 開会挨拶 福生市社会教育委員の会議 議長 野村 亮
- (2) 主催者挨拶 東京都町村社会教育委員連絡協議会 副会長 調布市社会教育委員の会議 議長 篠崎 光正 氏
- (3) 開催市挨拶 福生市教育委員会 教育長 石田 周

2 事例発表

福生市社会教育活動の事例報告
発表者 福生市社会教育委員の会議 副議長 西山 多恵子

3 講 演

みんなで「学び・楽しみ・つながる」ことからはじまる持続可能な地域づくり
～社会教育とアクティブ・シティズンシップ
講 師 二ノ宮リム さち 氏
(東海大学 スチューデントアチーブメントセンター 准教授)

4 グループワーク・まとめ

5 閉会

- (1) 次期第1ブロック幹事市挨拶
あきる野市社会教育委員の会議 議長 遠藤 隆一 氏
- (2) 閉会挨拶 福生市社会教育委員の会議 北島 浩子

令和4年度 東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第1ブロック研修会 報告

統一テーマ 市民のニーズを活かす・つなげる社会教育～対話からつくり、これからの「学び」～

第1ブロックテーマ みんなで「学ぶ・楽しむ・つながる」社会教育をめざして



令和4年12月10日
福生市社会教育委員の会議

日時 令和4年10月29日(土)午後2時から4時30分

会場 福生市もくせい会館3階 会議室

参加者数 52名

[1] 福生市 社会教育活動の事例報告
福生市社会教育委員の会議 副議長 西山多恵子



[2] 講演 … ニノ宮リム さち氏
みんなで「学び・楽しむ・つながる」ことから
はじまる 持続可能な地域づくり
～社会教育とアクティブ・シティズンシップ

[3] グループワーク(ワールドカフェ形式)・まとめ
ファシリテーター … ニノ宮リム さち氏



[1] 福生市 社会教育活動の事例報告

福生市の特徴 意見交換・分析

- (1) 人を受け入れ、人を育てる土壌がある。
- (2) 地域で育てられた人が、その後、地域に貢献。
また、お互いのつながりで新しい仲間づくり。
- (3) 一部の熱心な方々による、社会教育活動。

福生市の特徴が社会教育活動にどう活かされているか

<活動事例>

「学校支援地域組織」から「コミュニティ・スクール」へ

- ◇ 福生市内小中学校全10校にコミュニティスクール導入
- ◇ 各学校にコーディネーター配置、当初10名 → 24名

課題、これからのこと

若者や働き盛りの世代の意見・力を集める。

◇ ニーズの把握・発信・交流会の設定

社会教育活動の輪を大きく広げる。

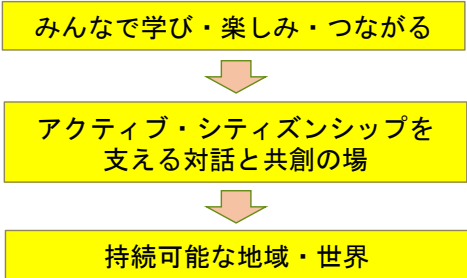
- ◇ 活動する人を育て、活動を継続する仕組みの構築。
- ◇ 多様性・多国籍・他民族・他文化を更に受容。
- ◇ 伝統と文化の継承。

コロナ禍で中断した活動の再始動

- △ 以前と同じ活動は出来ない？
- △ 途切れた活動の継承
- △ 価値観の変化
- ◎ 新しいものを生み出すチャンス!!!

[2] 講演

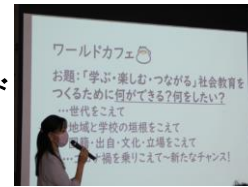
みんなで「学び・楽しむ・つながる」ことから始まる
持続可能な地域づくり
～社会教育とアクティブ・シティズンシップ
講師 … ニノ宮リム さち氏



[3] グループワーク(ワールドカフェ)
ファシリテーター ニノ宮リム さち氏

テーマ
「学ぶ・楽しむ・つながる」社会教育をつくるために何が出来る？何をしたい？
わが町で「学ぶ・楽しむ・つながる」社会教育をつくるためのアクション！

- ◇ 10グループで、第1ラウンド
- ◇ メンバーを変えて、第2ラウンド
- ◇ 各地域毎(市町)に分かれて、まとめ&発表



福生市の特徴、及び、課題の提起

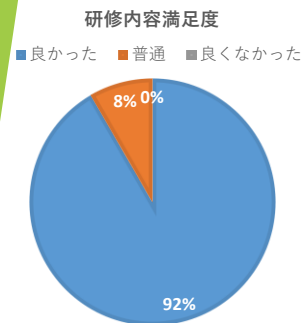
福生市の事例をふまえた講演

課題をテーマにワールドカフェ

交流・共有 → 自分の市・町へ



参加者アンケート集計結果



- ・他の地域の委員さんたちと上手に交流できた。
- ・ワールドカフェは初めてでしたが、思考の整理になった。
- ・コロナ禍を乗り越え、これからもウィズコロナで社会教育の在り方を考えるきっかけになりました。
- ・タイトな時間配分でしたが、反対にそれが効果的になったと思います。
- ・グループワークは楽しく他自治体との交流ができ、大いに参考になった。
- ・今日の内容を他市民へ説明ができない。言葉が理解しきれなかった。
- ・事前学習があると良かったです。
- ・グループワークの時間が少なかった。

第二ブロック研修会実施報告

報告者：立川市生涯学習推進審議会 会長 倉持 伸江

実施日時	令和 4年 10月 29日 (土) 14時00分～16時30分		
場 所	立川市役所 101 会議室		
参加者数	42名	幹事市	立川市

テ ー マ	わがまちならではの学び
形 式 (方 法)	<ul style="list-style-type: none">・事例紹介・グループに分かれて情報共有・意見交換・まとめ

【概要】

開会

開会の挨拶 立川市生涯学習推進審議会 会長 倉持 伸江

主催者挨拶 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 会長 谷部 憲一

開催市挨拶 立川市教育委員会 教育長 栗原 寛

第1部 事例紹介

「立川市ならではの学び」についてご紹介します。

(1) 「立川市民科」について

発表者：立川市教育委員会 前教育長 小町 邦彦 氏

(2) 東京学芸大学との連携事業について

発表者：立川市幸学習館 館長 柳 直昌

高松学習館運営協議会 委員 難波 敦子

東京学芸大学 学生 大久保 芽衣 氏

増尾 敬介 氏

《休憩》

第2部 情報共有・意見交換

グループに分かれて、各市ならではの社会教育事業について紹介し合い、地域資源を活かした連携・協働事業の推進について意見交換を行います。

第3部 まとめ

グループで出た質問や意見について、全体で共有します。

閉会

閉会の挨拶 次期第2ブロック幹事市

昭島市社会教育委員会 副議長 松本 智子 氏

東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第2ブロック研修会実施報告

立川市生涯学習推進審議会
会長 倉持 伸江

研修会検討のプロセス

立川市生涯学習審議会（社会教育委員兼務）における協議

- ▶ 令和3年11月24日 過去のブロック研修会の検討
- ▶ 令和4年 2月15日 テーマ案の持ち寄り
- ▶ 3月 8日 テーマの検討
- ▶ 5月18日 テーマ・構成の決定
- ▶ 7月6日 取扱事例の検討
- ▶ 9月1日 各項目の詳細決定
- ▶ 10月11日 当日の進行など最終確認
- ▶ 10月29日 研修会当日

概要

- ▶ 日時：令和4年10月29日（土） 午後2時～午後4時30分
- ▶ 場所：立川市役所101会議室
- ▶ スケジュール
 - 第1部 事例紹介
 - (1) 「立川市民科」について
 - (2) 東京学芸大学との連携事業について
 - 第2部 情報共有・意見交換
 - 第3部 まとめ

テーマ

「わがまちならではの学び」

ねらい

- ◆ **地域ならではの資源を活用**し、さまざまな**団体・機関と連携・協働**した**他市に誇れる特徴的な取り組み**は、どのような仕組みや工夫で行われているのか。
- ◆ **つながりづくり・地域づくり**につながる魅力的な社会教育事業と、それを支える推進体制のあり方について事例をもとに意見交換する。

第1部 事例(1)「立川市民科」について

「立川市民科で地域を元気に！」



小町 邦彦 氏
前立川市教育長
(公財東京都市町村自治調査会参与)

「立川市民科とは」・・・

義務教育の中で、主体的に地域と関わり、探究的な学習を深めることにより、児童・生徒の地域を大切にしたいという思いを育み、優れた伝統の継承や新たな未来を拓いていく、よりよい社会の担い手たる市民を育成することを目的とした立川市独自の取組。「大人の立川市民科」については後述。

立川市民科の代表的な実践事例



- ▶ 教育課程特例校制度の活用（教科化）
- ▶ 市内の9つの中学校区ごとに小・中学校が連携して、地域で探究的な学びを展開している

学校教育⇔社会教育の循環

- ▶ **学社一体**
学校教育と社会教育が一体となって生涯学習の視点から地域人材の育成が必要
学校教育：未来の担い手 社会教育：現在の担い手
- ▶ **立川市民科で未来を拓く**
子ども達の立川市民科の学びは、それを応援する大人も巻き込んで広がっている。子どもたちが教えてくれた地域の魅力は「大人の立川市民科」として、切れ目のない生涯学習へと展開されている。
「大人の立川市民科とは」・・・
立川のまちを知り、まちと関わり、まちに貢献する学習を通して、まちづくりを担う市民の輪を広げることが目指した立川市独自の講座・展覧会などの取組です。
- ▶ **社会教育委員や職員のコーディネート力**
方向性の違ういろいろな考え方があっても「地域をよくしたい」という気持ちは皆同じ。地域に目を向け、多様な実践を通じた人材育成が求められる。

事例2 東京学芸大学との連携事業について

「かわせみカフェ」

世代間交流を目的に、地域の方々が自由に来館し、年度ごとのテーマに沿った企画や工作、ゲーム、昔遊びを楽しんでいただく催し。
地域団体の代表や学識経験者で構成される地域学習館運営協議会からの発案で、学生と昔遊びをしたり駄菓子を食べながら交流できる場所とするため協働が開始した。

立川市幸学習館 館長
柳 直昌



靴下投げ



コマ回し

幸学習館かわせみカフェ
 日時：12月13日(日) 13:00-15:00
 場所：幸学習館(公共交通機関をご利用ください)
 費用：無料
 内容：オナモントリレー・鬼キャッチゲーム
 駄菓子の読み聞かせ・工作(リース、ツリー)
 大学生や職場の皆さんとゆるりとお話しして
 勉強しませんか？
 大人も子供も楽しめるような企画をご用意しております。
 お気兼ねなくお越しください！
 <お昼前>
 ・お茶とお菓子を30分ほど
 ・ふるふるお菓子作り体験も
 ・入り口で検温に協力してね
 ・お楽しみはあちやで食べてね。
 主催：幸学習館運営協議会
 立川市幸学習館(幸学習館)
 お問い合わせ：幸学習館 042-514-3076
 電話：042-514-3076

チラシ

「夏のおもいでたかまつり」

令和4年度初開催。
生涯学習市民リーダー(今までに培った知識や経験を活かすための登録制度)の活躍の場と、東京学芸大学の学生の実践の場を探していたことから企画された催し。高松学習館をより知ってもらうことを目標に学習館運営協議会、生涯学習市民リーダー、学生らが企画。人目につきやすい駐車場でもブースを設置するなどの工夫により、想定を超えるお客さんにご来館いただくこととなった。



駐車場を利用して集客UP



学生との打ち合わせの様子



高松学習館運営協議会委員
生涯学習市民リーダーの会長
難波 敦子

「プレ錦まつり」

東京学芸大学生涯学習コース4年
増尾 敬介・大久保芽衣

若い世代に生涯学習施設を利用してもらうこと、多様な世代の交流を促すこと、地域を活性化することをねらいに、錦学習館、錦学習館運営協議会、東京学芸大学が協働で行っている事業。学生は授業の一環として携わり、運営協議会委員や地域のさまざまな団体・組織と一緒に、地域課題解決を目指した事業の立案から運営までを行っている。



コロナ前のプレ錦まつり

第17回 プレ錦まつり
 2022年11月30日
 Zoom開催
 事前申込のみ
 プログラム
 13:00-14:00 開会式
 14:00-15:00 地域課題解決をテーマにしたパネルディスカッション
 15:00-16:00 学生によるプレゼンテーション
 16:00-17:00 自由参加型ワークショップ
 17:00-18:00 閉会式

チラシ



コロナ禍で各学習館のまつりが中止になる中、オンライン開催を実現

第2部 情報共有・意見交換

- 各市委員・職員混合の5人グループを形成
- 各市ならではの特色ある社会教育事業の紹介
- 学びを支えるしくみや工夫、課題について意見交換

各市からご提供いただいた「わがまちならでは」の取組チラシ例



グループに分かれて話し合い

参加者からの感想・ご意見

- ▶ 学校教育と社会教育の一体的な学び・活動が次の世代の子ども達へとつながっていく流れを実践したい事例を聞くことができた。
- ▶ 参加した委員・職員より、「国分寺プレイステーション」「あきしま会議」「平和市民のつどい（東大和市）」などの特徴的な事例が紹介された。
- ▶ 各市の事例紹介だけでなく、課題や取り組み中での悩みについても共有することができた。
- ▶ 自分の市との違いを知ることができた。持ち帰って他の委員と共有したい。



特徴的な取り組みについて発表している様子

第3部 まとめ

- ▶ 地域ならではの特徴・魅力ある社会教育事業
継続性+状況の変化に合わせた柔軟な対応
- ▶ 学びを通じた持続可能な地域づくりのために
コロナ禍でも、地域資源を掘り起こし、工夫すれば活動できる
- ▶ 多様なつながりが好循環を生む
団体・組織、世代、テーマをまたいだ連携・協働
- ▶ 取り組みを語り合い・聴き合う場
苦労を力に変え、取組みの再評価にもつながる
- ▶ 多様な視点からの検証
構造・しくみ・工夫・課題などを複層的・多角的に検討できる

ご清聴ありがとうございました。



第三ブロック研修会実施報告

報告者： 日野市社会教育委員の会議 議長 小杉 博司

実施日時	令和4年11月12日（土）14時00分～16時00分		
場 所	多摩平の森コミュニティホール TreeHALL（ツリーホール）		
参加者数	23名	幹事市	日野市

テ ー マ	「デザインでつながる学び ～ 創造してみよう！～」
形 式（方法）	基調講演・ワークショップ 事例発表
<p>【概要】</p> <p>【第1部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基調講演 「図工の先生が語る デザインでつながる学びのカタチ～紙コップ星人から生まれる～」 講師 帝京大学 教育学部 初等教育学科 講師 大櫃 重剛（おおびつ しげたか）氏 ・ ワークショップ 「紙コップを用いたアニメーション作品」の作成 今回の研修では2人一組になって、紙コップを加工（ハサミでカット）しながら、その過程を撮影し、それを動画（パラパラ動画）風にお見せいただくもの。スマートフォンやタブレットなどのカメラで撮影し、その画面をスクリーンへ投影・共有します。 <p>【第2部】</p> <p>日野市生涯学習推進基本構想・基本計画「日野まなびあいプラン」 発表 日野市社会教育委員の会議 議長 小杉 博司</p> <p>～社会教育委員手作りの計画策定作業から その思い～として、 昨年度改定した、日野市生涯学習推進基本構想・基本計画「ひのまなびあいプラン」、改定への考え方、思いや苦労話につきまして、事例発表を行った。</p>	

令和4年度
東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第3ブロック研修会

日時 令和4年11月12日(土曜日)14時00分～16時00分

会場 多摩平の森コミュニティホール
TreeHALL(ツリーホール)

日野市社会教育委員の会議

第3ブロック研修会テーマ

「デザインでつながる学び～創造してみよう!～」

- ▶ この日野市生涯学習推進基本構想基本計画「日野まなびあいプラン」のコンセプトに関連づけながら、「対話」と「デザイン」をキーワードに、
- ▶ 「デザインでつながる学び ～創造してみよう!～」を第3ブロック研修会テーマに設定いたしました。
- ▶ この研修会が、「対話が生まれる」「楽しく学ぶ」を実践できる場となるように企画し、開催に至りました。

第1部 講演会・ワーク

「図工の先生が語る デザインでつながる学びのカたち
～紙コップ星人から生まれる物語～」
帝京大学 教育学部 初等教育学科 講師 大櫃 重剛（おおびつ しげたか）氏



学びの原点としてのアート

- ① 身近にある「面白い!」に気付く
- ② 「やってみたい!」をどんどん試す
- ③ みんなで「なるほど!」を広げる
- ④ 「こうしたい!」を形にしてみる

子どもの育ちと造形教育のつながり

学びの原点は、

- ① 身近にある「おもしろいな」に気づく
- ② 思ったことを、遊びにしてみる
- ③ みんなで、なるほどの共感、学びにつながる
- ④ こうしたい、を形にして、いく

感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと。「創造する」ことは、学びの原点でもあることを再認識しました

「紙コップを用いたアニメーション作品」の制作

「コップ星人の変身を目撃！」

これまで表現活動の成果物としての「作品」ばかりが評価の対象とされてきましたが、これからの子どもたちには「作りながら、どう発想を練り直し、よりよい活動を生み出すか」という視点が欠かせない。本題材は、発想・構想のプロセスについて注目させることをねらいとした、コマ撮りアニメ製作の活動。

(材料) 紙コップ、はさみ、カメラ機能付き端末(タブレット、デジタルカメラ等)

(制作の流れ) 2人ペアで「紙コップを変形・操作する」役 と「カメラで撮影する」役を分担した。

① ここに何の変哲もない紙コップがあります。



② この紙コップに「切る」などの操作を1つ加えるたびに、撮影役の人に1コマ撮影してもらう



③ また別の操作「折る・曲げる」などの操作を加えたら、撮影役の人に1コマ撮影してもらう。



④ カメラで撮影したコマを連続して見返し、操作による変化・動き▶アニメを鑑賞する。



⑤ 合計10コマを撮影するまで「どのように変身させようか」と考えながら、操作⇔撮影 を繰り返す。



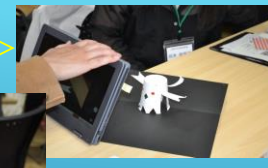
あまり難しく考えずに
楽しみながら
いろいろな線で切りこみを入れたり、
次に それを折り返したりして
好きな形に変えてみましょう。
その様子を
ペアの方に撮影してもらえば
アニメ作品が出来上がります。



< 会場・参加者の様子 >



< 様々な「紙コップ星人」 >



第四ブロック研修会実施報告

報告者：小平市社会教育委員の会議 議長 井戸 雅子

実施日時	令和4年10月26日（水）午後2時～午後4時		
場 所	ルネこだいら（小平市民文化会館）レセプションホール		
参加者数	36名	幹事市	小平市

テ ー マ	(ブロックテーマをご記入ください) 地域学校協働活動を円滑に進めるために
形 式（方法）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表 ・講演 ・グループワーク

【概要】

- 1 開会のことば
小平市社会教育委員の会議 議長 井戸 雅子
主催者あいさつ
東京都市町村社会教育委員連絡協議会 副会長 吉田 和夫 氏
開催市あいさつ
小平市教育委員会 教育長 古川 正之
- 2 事例発表
「小平市における地域学校協働活動について」
発表者 小平市社会教育委員の会議 議長 井戸 雅子
- 3 学習支援者講演
「地域活動における「つながりづくり」と「学び」について」
学習支援者 武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科
教授 齋藤 啓子 氏

～休憩～
- 4 グループワーク・発表
- 5 学習支援者による講評
- 6 閉会のことば
小平市社会教育委員の会議 副議長 生尾 光

東京都市町村社会教育委員連絡協議会

第4ブロック研修会 実施報告

報告 小平市社会教育委員の会議 議長 井戸 雅子
< 東村山市・清瀬市・東久留米市・西東京市・小平市 >

1

第4ブロック研修会テーマ

「地域学校協働活動を円滑に進めるために」

日時 令和4年10月26日(水) 午後2時~午後4時

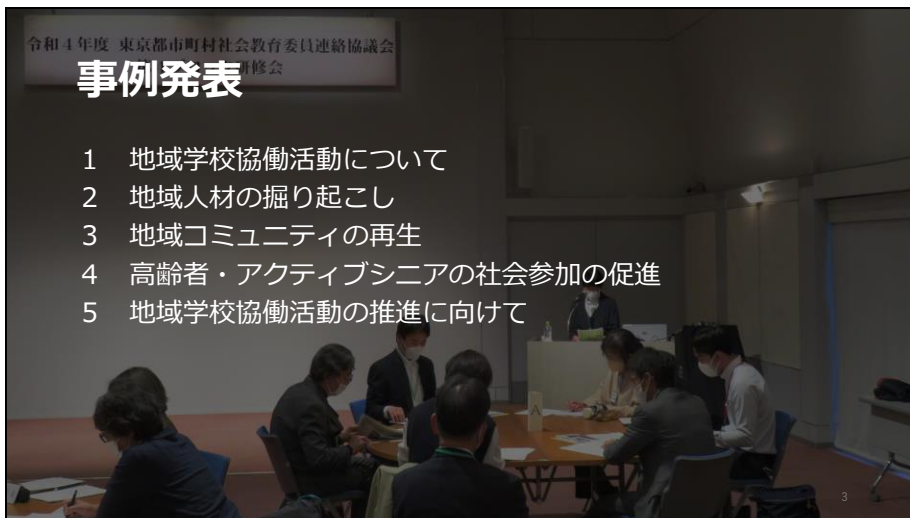
会場 ルネこだいら(小平市民文化会館)

レセプションホール

参加者 36人

2

15



1 地域学校協働活動について

4

2 地域人材の掘り起こし

- ・大人のしゃべり場
- ・異業種 de 話・飲
- ・公民館事業企画委員会

5

3 地域コミュニティの再生

- ・公共施設マネジメント推進計画

6

4 高齢者・アクティブシニアの社会参加の促進

- ・平成30年度・令和元年度小平市社会教育委員の会議自主研究
- ・「人生100年時代を見据えた小平市社会教育委員の在り方ー全員参加型社会の構築を目指してー」



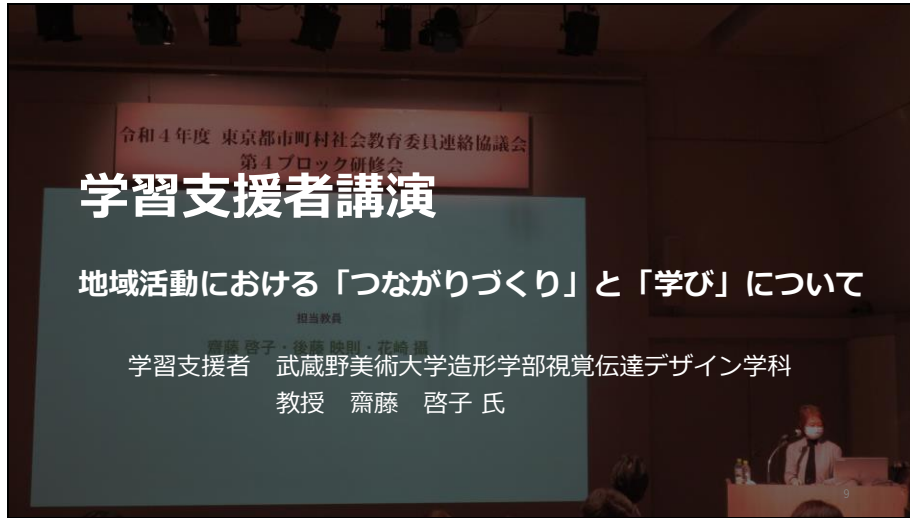
7

5 地域学校協働活動の推進に向けて

- ・令和2年度・3年度自主研究
→地域学校協働活動の中心を担っている
地域教育コーディネーターにアンケートを実施
- ・「小平市におけるコミュニティ・スクール及び小平地域教育サポート・ネット事業について」



8



環境デザインの授業

- ・大学から出て学生と共に考え、実践し、町や企業をデザイン
- ・ものをつくるデザインだけではなく、関係をつくるデザインを学ぶ

10

環境デザインの授業

- ・ **たまほく×ムサビプロジェクト**
→多摩北部医療センター（通称たまほく）と
武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科3年環境デザインクラス
との共同研究プロジェクト
- ・ **共生社会実現のためのコミュニティづくりに関する共同研究**
→ともに小平市に位置する武蔵野美術大学と株式会社ブリヂストンが
「多様化する地域社会での共生社会実現」という目標に向かって、
今後のあるべき姿を「デザイン」の観点から検討

11

たまほく×ムサビプロジェクト

- ・デザインのかで病院をより居心地の良い場所に！
- 1 たまほく 本の森
- 2 ちっちゃなきっかけ バッジ



12

1 たまほく 本の森

病院の先生方に親しみを持ってもらうために、先生の思い出の本についてのエピソードを、外来患者が多くいる待合スペースに掲示。

患者や病院スタッフに展示を見た感想を「おへんじの木」としてのごしてもらい、ひとつの森ができる仕組みになっている。

森の中にある病院ということにちなんで、森をモチーフにした展示になった。



2 ちっちなきっかけ バッジ

院内の医療関係者が、好きな食べ物のバッジを身に着けて、普段通り業務に携わる。

バッジが何気ない会話の「きっかけ」になり、院内のコミュニケーションの促進につながった。



共生社会実現のためのコミュニティづくりに関する共同研究

「異才たちのアート展」の企画に協力

→障害者とその作品をととして多様な人々のコミュニケーションを促進



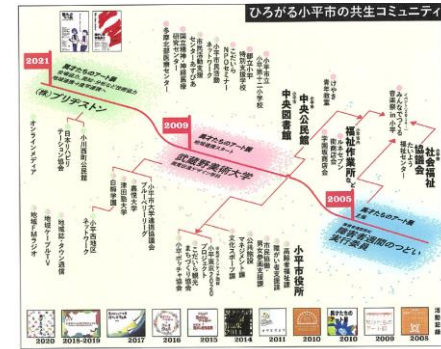
異才たちのアート展2022 開催中！



異才たちのアート展2022 開催中！

日 程：2022年11月25日（金）～2022年12月17日（土）
10:00-16:00 *入館は15:30まで *休館：日曜日・祝日
場 所：ブリヂストンイノベーションギャラリー
（東京都小平市小川東町3-1-1）
入場料：無料
主 催：第29回障害者週間のつどい実行委員会
後 援：小平市、小平市教育委員会、小平市社会福祉協議会、
小平商工会
協 力：武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科、
株式会社ブリヂストン

ひろがる 小平市の共生コミュニティ



※冊子「同じまちで、生活しているのです。」より

グループワークから



グループワークから

【Q：参加者】

講演でブリヂストンとの協働事例が紹介されていたが、企業との協働について興味を持った。費用面がどうなっているか知りたい。

【A：齋藤先生】

学生の教材費を使用している。ブリヂストンにも研究費をいただいている部分があるが、それほど多くの支出はない。他の団体等と連携している事例があるが、大学の状況（学生がどのような授業を受けているかなど）を知ってもらう機会にもなっている。

グループワークから

地域活動に関する各市の状況・課題点について

- ・市内の活動に学校ごとの温度差あり
- ・新しい人材確保に苦労あり
- ・みんなで課題解決

21

グループワークから

民間委託による放課後子供教室の中での取り組みの課題

- ・地域企業・団体との交流について（どう入ってもらえるのか）
- ・市民とNPO、文化協会、体育協会が学校へ行って出前演技を行っていたがコロナでストップしている。

22

グループワークから

- ・今後、文化が進んでいくにつれ、世代間ギャップがさらに大きくなると思う。SNSの種類も増え、ついていけない実感がある。ネットで調べるのは便利だが、正確な情報を調べるには本を活用するなど使い分けている。
- ・Zoomでは、確認がうまくできるか不安な面が多い。一方、便利になる面も多いので、うまく活用したい。当方では、持続可能な地域づくりをテーマに提言を進めている。地域学校協働活動はこのカギになるものであり、今回の講演は大いに役立った。

23

市民のニーズを活かす・つなげる社会教育

～対話からつくろう これからの「学び」～

（令和4年度統一テーマ）

24

第五ブロック研修会実施報告

報告者：武蔵野市社会教育委員の会議議長 助友 裕子

実施日時	令和4年11月6日（日） 13時30分～16時30分		
場 所	武蔵野スイングホール 10階スカイルーム		
参加者数	39名	幹事市	武蔵野市

テ ー マ	「市民のニーズを活かす・つなげる“学びおくり”のいま～社会教育にできること～」
形 式（方法）	<ul style="list-style-type: none"> ・『第二期武蔵野市生涯学習計画の紹介』 ・『事例紹介 武蔵野市民交響楽団』 ・ワールドカフェ

【概要】

開会

開会の辞 武蔵野市社会教育委員の会議議長 助友 裕子
 開催市挨拶 武蔵野市教育委員会 教育長 竹内 道則
 主催者挨拶 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 副会長 篠崎 光正 氏

- ・『第二期武蔵野市生涯学習計画の紹介』 武蔵野市社会教育委員の会議 議長 助友 裕子
- ・『事例紹介 武蔵野市民交響楽団』
 武蔵野市民交響楽団事務局長・武蔵野市社会教育委員 岡本 厚子
- ・ワールドカフェ『市民のニーズを活かし、つなげ、社会教育にできることは？』
 ファシリテーター 武蔵野市社会教育委員の会議 副議長 光田 剛

1 ラウンド

- 「市民のニーズを活かし、つなげるための課題・困りごと」
- 0 自己紹介：名前、小学校の時好きだった教科
 - 1 各自、付箋1枚に1「課題・困りごと」を記入
 - 2 グループでシェアし、解決策（良い事例）を話し合い
 グルーピング、見出し、できることをメモ

2 ラウンド

- 0 自己紹介：名前、小学校の時好きだった教科
- 1 模造紙を見ながら各テーブルで出た話を共有
 模造紙に足跡（イラストやマーク、コメント、解決策）をつける

3 ラウンド

各テーブルで出た話から発見や学びを持ち帰り共有

全体セッション 発表 7テーブル×各3分

クロージング ファシリテーターのまとめ、感想、記念撮影

閉会

次期幹事市 三鷹市生涯学習審議会・社会教育委員会 会長 田中 雅文氏
 閉会の辞 武蔵野市社会教育委員の会議 副議長 光田 剛

東京都社会教育連絡協議会 第五ブロック研修会

テーマ

市民のニーズを活かす・つなげる

「学びおくり」のいま ～社会教育にできること～



令和4年11月6日(日)
午後1時30分～4時30分
武蔵野スイングホール

■スケジュール

- ◆開会
- ◆「第二期武蔵野市生涯学習計画」の紹介
- ◆事例紹介『武蔵野市民交響楽団』
- ◆ワールドカフェ
「市民のニーズを活かし、つなげ、
社会教育にできることは？」
- ◆閉会

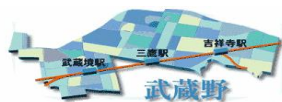


◆「第二期武蔵野市生涯学習計画」の紹介

背景

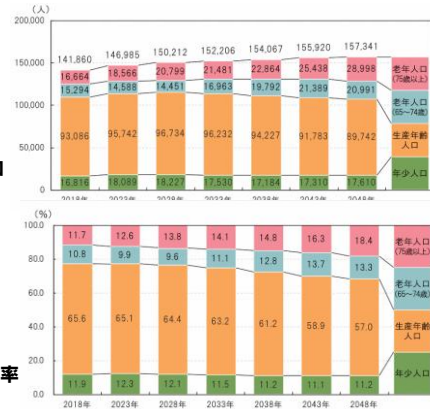


人口推計:年齢3区分別人口

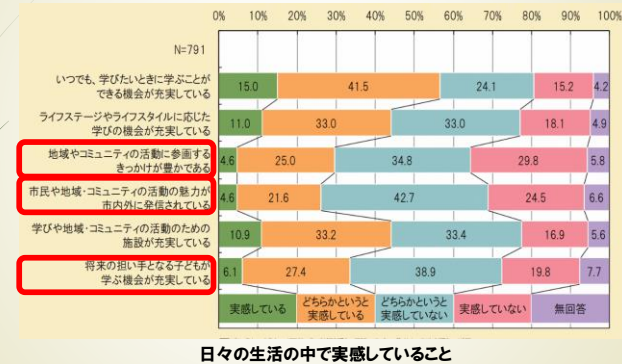


人口推計:年齢3区分別人口の比率

資料:第二期武蔵野市生涯学習計画



背景



基本理念

基本理念
学びおくりあい、わたしたちがつくるまち
 「学びおくり」とは、学んだことを他者、地域、コミュニティ、社会、あるいは次の世代へ「おくる」という意味の本計画の造語です。この「学びおくり」を通して、市民が自分たちのまちを自分たちでつくることを「学びおくりあい、わたしたちがつくるまち」という言葉で表現し、これを本計画の基本理念とします。

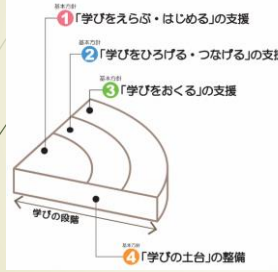
「恩送り」 恩を受けた人ではなく、それ以外の
 人へ送ること

「学びおくり」 学んだことを他者、地域、コミュニティ、社会、あるいは次の世代へ
 「おくる」(送る・贈る)こと



資料：第二期武蔵野市生涯学習計画

Lifelong Learning 第二期武蔵野市生涯学習計画 概要版



資料：第二期武蔵野市生涯学習計画

● 趣旨概要

第①「学びをえらぶ・はじめる」の支援
 あらゆる年齢の市民が学びたいものがあるように、多様なライフスタイルに対応した学びの機会を、生涯学習の推進事業を通して、それぞれに合った学びをサポートします。
 1-1 生涯学習支援センター(生涯学習センター)の活用
 生涯学習センターによる生涯学習の推進を図ります。生涯学習センターの活用による学びの機会を、生涯学習の推進事業を通して、それぞれに合った学びをサポートします。

第②「学びをひろげる・つなげる」の支援
 学んだことを自分たちのまちに広げ、学びを深めること、学びを共有することによって学びを深めること、学びをツールとして他者とのコミュニケーションにつなげることをサポートします。
 2-1 学びを深めるための機会の提供
 取り組みやすい学びはじめの機会を提供することと同様に、既に学んだことをさらに深めるための機会を提供していきます。
 2-2 生涯学習に関する団体活動の支援
 既存団体・新規団体を問わず、生涯学習に関する団体活動の支援を推進します。
 2-3 発表や交流の促進
 学びの成果を発表し、また学びをベースにして交流する機会を充実させていきます。

第③「学びをおくる」の支援
 学んだことを自分たちのまちに広げ、学びを深めること、学びを共有することによって学びを深めること、学びをツールとして他者とのコミュニケーションにつなげることをサポートします。
 3-1 学びの場を整備
 生涯学習の推進事業として、生涯学習の推進センター(生涯学習センター)の活用による学びの機会を、生涯学習の推進事業を通して、それぞれに合った学びをサポートします。
 3-2 生涯学習の推進事業
 生涯学習の推進事業として、生涯学習の推進センター(生涯学習センター)の活用による学びの機会を、生涯学習の推進事業を通して、それぞれに合った学びをサポートします。
 3-3 学びの場を整備
 生涯学習の推進事業として、生涯学習の推進センター(生涯学習センター)の活用による学びの機会を、生涯学習の推進事業を通して、それぞれに合った学びをサポートします。

第④「学びの土台を整備」の支援
 生涯学習の推進事業として、生涯学習の推進センター(生涯学習センター)の活用による学びの機会を、生涯学習の推進事業を通して、それぞれに合った学びをサポートします。

「学びをひろげる・つなげる」の支援

基本方針 **②「学びをひろげる・つなげる」の支援**
 学んだことを自分のさらなる学びに広げていくこと、学びを他者と共有することによって学びを深めること、学びをツールとして他者とのコミュニケーションにつなげることをサポートします。
 2-1 学びを深めるための機会の提供
 取り組みやすい学びはじめの機会を提供することと同様に、既に学んだことをさらに深めるための機会を提供していきます。
 ◆大学との連携による学びを深めるための機会の提供、既存事業における「ステップアップ講座」の検討、学校外で子どもたちが学びを深められる事業の推進
 2-2 生涯学習に関する団体活動の支援
 既存団体・新規団体を問わず、生涯学習に関する団体活動の支援を推進します。
 ◆社会教育関係団体の支援のあり方の検討、生涯学習に関する補助金制度の改善の検討
 2-3 発表や交流の促進
 学びの成果を発表し、また学びをベースにして交流する機会を充実させていきます。
 ◆生涯学習に関する団体相互の連携促進、学びの成果の発表・発信の支援、文化施設に関する検討



「学びをひろげる・つなげる」の支援

- 武蔵野市生涯学習事業費補助金
- 武蔵野市子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金

主なスケジュール

3月 広報開始
 4月 募集〆切
 5月 審査(書面・プレゼンテーション)
 6月 結果通知・交付
 <視察>
 3月 報告会

資料：武蔵野市公式ホームページ





多世代交流の場
となっている

■「学びおくり」の活動としてのまとめ

- 年間7回の定期演奏会 → 地域へ
- 準団員活動 → 次の世代へ、地域へ
- むさしっこ！活動 → 次の世代へ、地域へ
↳ 武蔵野市からの委託事業
- 小中学校音楽支援 → 次の世代へ、地域へ
↳ 武蔵野市からの委託事業
- ふれあいコンサート → 次の世代へ、地域へ
- 成人式など武蔵野市の式典での演奏 → 地域へ
- その他、民間の市内イベントに参加 → 地域へ

「おくる」



■現状と課題

- ◇コロナ禍の影響で長らく中止されていた活動が、徐々にではあるが再開することができて喜ばしい。
- ◇しかし、いまだに活動に制限は多く、特に学校施設利用に関しては人数制限が厳しいためこれまで使っていた中学校が使えず、毎回外部の練習会場探しに苦労している。
- ◇また、活動は再開し始めたものの、本団員も準団員も、活動再開を喜んでいる人とコロナに慎重な人とに二分されてしまった。
- ◇武蔵野市からのご支援、ご協力をいただきつつ、活動を通じて自分たちも楽しみながら地域に貢献していきたい。

◆ワールドカフェ

市民のニーズを活かし、つなげ、社会教育にできることは？

- 1ラウンド 自己紹介／問いについて話し合い
別テーブルへ移動
 - 2ラウンド 自己紹介／各テーブルでの話を紹介
1ラウンドのテーブルへ戻る
 - 3ラウンド 発見や学びを持ち帰り共有する
- 全体セッション 発表（各3分）×7テーブル
- クロージング まとめ



■ ワールドカフェの様子



課題・困りごとを付箋に書き出す



グループで解決策を話し合う

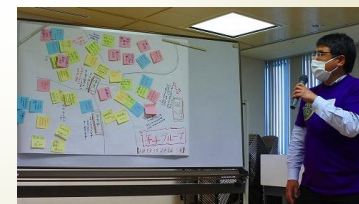


2ラウンドでは各テーブルで出た話を共有し、模造紙に足跡をつける
3ラウンドで各テーブルで出た話から発見や学びを持ち帰り共有



社会教育委員も事務局も混ぜて討議

◆ 全体セッション 発表



市民のニーズを活かし、つなげ、社会教育にできることは？

1グループ

個人と団体の関わりについて話した。子育て等の多忙から団体に入るのが難しくなる。そのため、**まずは自分たちの団体が楽しいと思うことが大切である**。団員自身が楽しいと感じないと参加者は楽しいと感じないのではないか。また、高齢化した団体にどう続けさせるか。若者をどのように巻き込んでいくかが今後の課題である。

2グループ

市民ニーズ、出会い、活動場所、高齢化、優先度、時間、行政、発信、デジタル化等の多くのキーワードが出た。行政視点と団体視点で共通していたことは、高齢化である。若者が団体に入っても高齢の方とうまく共有できていないのではないか。世代間で共有ができれば、うまくいくのではないかと。例えば、情報のデジタル化等、情報の発信方法を考えていくべきか。**今後は、若者が入りやすい団体づくりや若者の団体を立ち上げることも必要**。地域と大学生寮等と連携して地域防災や清掃を行い、地域に参加していく一つの手段としてはどうか。

市民のニーズを活かし、つなげ、社会教育にできることは？

3グループ

1ラウンドでは、社会教育団体の固定化や市民ニーズを把握できていないことや各団体の広報が効果的にできているか、保護者世代の参加が少ない等の意見がでた。2ラウンドでは、これらの問題について行政目線・市民目線それぞれで考えたが、課題は共通しているのではないかと。3ラウンドでは、**保護者世代の社会教育への参加率が低いことから他の分野にも影響を与えているのではないかと考えた**。保護者世代が参加することによって、ニーズの把握ができる。**保護者を巻き込むためには、人と人をつなげるパイプ役を設置する仕組みが必要と考えた**。

4グループ

世代、補助金、広報の課題について話した。世代の課題は、団体の高齢化やコロナ禍での意欲低下である。また、世代間の交流ができていない。地域コーディネーターと行政が連携していくべきか。補助金の課題は、申請の煩雑さや援助内容である。広報の課題は、若年層が参加するための効果的な広報ができていないことである。2ラウンドでは、各市の取り組みについて話した。府中市では、市報の全戸配布を行っていない、新聞に折込で入れているため新聞を取っていない人に十分な広報ができていないと感じる。3ラウンドでは、次世代につながる「子ども」に対しての社会教育について話した。また、世代交代を行うのではなく新しい団体が出来れば良いという考えも生まれた。**広報媒体については、若年層でも紙で見ていることから紙ベースの広報も大切である**と考える。

市民のニーズを活かし、つなげ、社会教育にできることは？

5グループ

マッチングをキーワードに話した。地域では、同じような分野で各々が活動している団体が多いのではないかと。また、同じ団体が毎年活動しているため固定化されているが、新しく活動したい人も多くいるのではないかと。しかし、新しく始める方法等を知らないか。これらの**ニーズをマッチングさせる**ことが必要なのではないかと。先日地域の相撲大会を3年ぶりに開催した。久しぶりの実施のため、運営に先生が入る予定だったが、中学生のみで運営した。子どもの力を再認識できる機会となった。また、地域コーディネーターを学校教育のためだけでなく、生涯学習分野にも協力してもらうべきである。

6グループ

1ラウンドでは、ニーズ、地域、団体の高齢化、ICTを活用した広報、社会教育とは何かについて話した。2ラウンドでは、団体の後継者やコロナ禍での活動の制限、個人と団体のつながり、団体内の格差、社会教育関係団体と地域のつながりがうまくできていないことなど挙げられた。これらの課題から、**各学校の地域コーディネーターがつなぎ役**になり得ると考える。また、コロナ禍でWi-Fiの整備が必要か。ICTを活用した広報は、具体的にディスプレイ配信等で行っていくべきか。

市民のニーズを活かし、つなげ、社会教育にできることは？

7グループ

市民ニーズの把握や情報の発信方法・受信方法に課題があるか。運営をする団体も高齢化になっている。私の地域では、公式LINEを活用して地域の情報を発信している。若者から高齢者までLINEを使用している傾向なため、効果的に活用できていると考える。例えば、地域の少年野球のメンバー募集や祭りの情報を発信している。LINEと並行して紙ベースでも発信していきたい。**ニーズを把握して誰に情報を届けるのが大切である**。

まとめ

市民ニーズの把握、団体の高齢化、広報、時間、活動場所等のキーワードが上げられた。多くのグループは、行政目線と市民目線から考え、地域活動の今後の課題等を再認識した。

また、様々な地域ニーズを把握し、地域コーディネーター等と連携して、ニーズのマッチングをしていくことが必要か。

コロナ禍でも団体の活動が徐々に再開している中、市民のニーズを活かし、つなげ、様々な世代交流の場や個人、団体、地域のつながりを提供していくことが社会教育にできることではないか。

※撮影時のみマスクをはずしています。



ご清聴ありがとうございました。

第2部 社会教育委員研修会

孤独を解消する！だれもが対話し、つながる社会へ

<研修会の企画にあたって>

今年度の統一テーマに取り入れた「対話」というキーワードは、会長市である昭島市もここ数年テーマとして掲げ、対話の文化の醸成をめざし、事あるごとに議論、調査研究を重ねております。

本日はご紹介するのは、重い障害、あるいは、高齢化により、たとえ体が動かなくても、分身ロボット OriHime をとおして社会とつながり、仕事や学習をし、笑顔で暮らしている方たちのことを知っていただきたい、そして、社会教育に携わる皆様と、誰もがつながり合って生きていくことを改めて考える機会にしたいと思い、企画しました。

<研修会の流れ>

株式会社オリィ研究所コーポレートムービー視聴

OriHime パイロット なおき様よりご講演

NPO 法人東京こどもホスピスプロジェクト代表理事 佐藤 良絵様よりご講演

OriHime パイロット体験 昭島市社会教育委員 信國 遙

株式会社オリィ研究所のコーポレートムービーは、YouTube でご覧いただけます。

「(株)オリィ研究所 コーポレートムービー」で検索してください。

また、NPO 法人東京こどもホスピスプロジェクトについては、配付のパンフレットをご覧ください。